医学・薬学の根源となる

偉人たちの裏ばなし

岩田明子

ドイツ文化圏で活躍した偉人として、第1回、第2回とゲーテをご紹介いたしましたが、今月の偉人は、日本でも教育分野で有名なルドルフ・シュタイナーです。ここでは、医学や科学の分野で

第3回　R・シュタイナー

『シュタイナー先生、こどもに語る』
松浦賢 訳／
イザラ書房 刊

『精神科学と天体星と人間』
西川隆範 訳／
風濤社 刊

Profile

Rudolf Steiner（ルドルフ・シュタイナー）1861〜1925

ローストック大学で哲学の博士号取得。哲学者・教育家・神秘思想家。「人智学」に基づく教育を提唱。Waldorf Schule（シュタイナー学園）を設立。シュタイナー教育と並んで、近年シュタイナー医学（ヤドリギ療法）、バイオダイナミック農法に基づいた有機野菜やワイン造り、ヴェレダ（WELEDA）などのオーガニックコスメが世界で注目を浴びている。

● 超感覚的知覚を通して見た自然界

自然界の背後に、まだ解明されていない法則があるということを前提に、科学者たちは日夜、自然界の法則を探求していますが、シュタイナーもまた、自然の法則に並々ならぬ関心があり、その真実を解明することに生涯を費やした人物でした。

日本でシュタイナーといえば教育分野で有名ですが、世界では近年、彼の提唱したバイオダイナミック農法やシュタイナー医学といった自然科学の分野でも注目を浴び始めています。

シュタイナーは、自然界に存在するあらゆるものは、相互に影響し合い、共鳴し合い、ひとつの全体をなしているもの、つまり自然界を有機的なものとして捉えていました。さらに特筆すべきは、人間と自然の有機的な関連を、彼自身の「超感覚的な知覚」に基づいて観察し、目に見えない次元とのつながりを次々に解明し、その延長上に彼独自の教育方針、農業、医学、芸術などの諸分野で展開している点にあります。優れた教育者であり、思想家でもあった彼は、いったい自然科学の分野でどのような足跡を残したのでしょうか？

● バイオダイナミック農法と種まきカレンダー

最近注目されているシュタイナーのバイオダイナミック農法は、ヨーロッパ、オセアニア、アメリカなどの国々で実践されている特殊な有機農法ですが、彼らが頼りにしているのは毎年発行される「種まきカレンダー」です。このカレンダーには、種まきや刈り入れ、収穫についての最適な時期が、農作物の種類別に、太陽系の惑星の相互関係に基づいて掲載されています。

シュタイナーの自然観や人間観の根底には、あらゆる存在―鉱物、植物、動物、人間―が、太陽系の天体から影響を受け、宇宙のリズムを受信しながら存在し息づいているという考えがあります。人類の営みを、太陽系の天体や地球誕生のプロセスに関連づけて説明するのです。

シュタイナーによれば、植物の根は、月の影響下にあります。たとえばビート（テンサイ）は人間の消化器官に良い食べ物ですが、特に腸内に虫が寄生している場合、その駆除を可能にすることが知られています。そして、虫の除去が最も強力に行えるのは満月に食べた時であるとして、彼は月相を考慮にいれる必要があると説くのです。人間の健康を、食物と月あるいは他の天体との関連によって語るわけです。

また土壌に関しても、今日まったく注目されていないミネラル不足を補うために独自の調合剤―たとえば水晶の粉など通常では必要とされないミネラル類―を土壌に含ませるなどして何年もかけて土地に生命を呼び覚ませていきます。推奨されている調合剤や諸条件を満たすには大変な労力がかかりますが、近年フランスをはじめ、世界各国の有名なワイナリーがバイオダイナミック農法を導入し始めているほか、この農法に基づいたオーガニックコスメがいまや世界的なブランドにもなっていることを考えると、科学的な証明よりも先に、シュタイナーの先見の明は、出来上がった商品の安全性や効力が先行して、世に広まりつつあることがわかります。

● シュタイナー医学：ヤドリギ療法

シュタイナー医学の分野で最も有名なのはヤドリギ療法です。ヤドリギ（宿り木）は、その名の通り他の植物に寄生して成長します。宿り木が自然界で見せるこの形態が、人間内部の腫瘍形成に相関していることを直感的に見抜いたシュタイナーは、20世紀初頭、この植物を用いたイスカドールという製薬を開発するに至りました。

ハイデルベルク滞在中、ヤドリギ療法を研究している教授から、ドイツにおけるガン患者の半数以上の方が、この製薬を、外科手術、化学療法、放射線療法と併用しているということ、それによって様々な副作用が軽減され、免疫力がアップする点で優れていると伺いました。その効果は実証されていますが、その効力の科学的な根拠はまだ解明に至っていません。それにもかかわらず、イスカドールはドイツの多くの大学病院で処方されているだけでなく、欧米はもとより、韓国や中国でも保険が適用されているほど、がん治療には欠かせないものになりつつあるのです。

● シュタイナー教育×科学の発展

芸術教育と称されることが多いシュタイナー教育ですが、自然科学の分野での彼の貢献を見ていくと、その思考方法や観察方法は現代の自然科学のそれに反するものではなく、ただ観察対象が通常の知覚では到達できない次元にまで及ぶという点で、その成果の科学的な証明は、彼と同程度に進化した未来の人々の手に委ねられているのが現状だということがわかります。

そうはいっても、彼の超感覚的な直観に基づいて創りだされた製剤や農法が次世代に綿々と受け継がれ、現代社会のニーズに適応し、その実績によって評価が着実に高まっていくなか、逆説的ではあっても、意識の拡大というシュタイナー教育の課題が、あらゆる分野において新しい地平を啓く鍵であるという印象を、人々の心に強く残していることだけは確かなようです。

今は亡きこの偉人の視点からみれば、ビートと月の運行とが我々の腸の健康に貢献してくれていると聞いて、そんなパワフルな野菜を作ってみたい、そんな目に見えない次元の法則があるのならば是非、解明してみたいという冒険心にかられる人こそ、真に科学的な資質をもっている人物と評価されるに違いありません。科学の進歩発展の陰に、意識の進化と拡大あり。偉人度数は、目に見えない意識の配慮範囲に比例するのかもしれません。

いわた・あきこ

心理カウンセラー。ドイツ語翻訳家。立教大学大学院文学研究科後期課程を経てハイデルベルク大学神学部博士課程に留学。比較宗教学・宗教心理学を修める。ドイツにて、自然療法と精神神経免疫学を基礎とする心理療法の資格を取得。自然療法についての翻訳書多数あり。著作として『「アルプスの少女ハイジ」に学べ！ 元気を取り戻す11の方法とは？』（飛鳥新社）がある。